

信州大学医学部附属病院薬剂部
教育研修規定

2025年4月（初版作成）

1. 研修理念・基本方針

<理念>

大学病院の薬剤師として、病院薬剤業務とともに、それぞれが薬剤部運営や教育・学術活動にも積極的に関わり、将来的に長野県の医療を支えるリーダーとなる人材を育成する。

<基本方針>

地域医療を支えるリーダーとなる人材を育成するために「初期教育」「キャリアアップ教育」「業務マネジメント教育」を育成の3本柱とし教育を行う（図1）。

初期教育

新人薬剤師が薬剤師の基本的スキルを身に着けた薬剤師になるために、室ローテーション・集合研修により、病棟業務、夜勤業務に必要な基本的業務の習得を目指す。

キャリアアップ教育

自立し活躍できる薬剤師になる事を目指す。5室以上の臨床薬剤業務（調剤室、注射薬払出室、製剤室等）を経験し業務を習得する。病棟業務では内科系外科系含めた8診療科以上の複数診療科を経験し、幅広い疾患に対する薬物療法の習得を目指す。

業務マネジメント教育

業務推進・改善能力を身に着けた薬剤師となることを目指す。各室長の下で室業務の課題解決や、薬剤部内や病院内の各部署との業務調整を経験することで、組織ガバナンスを理解した上での業務推進・改善能力の習得を目指す。

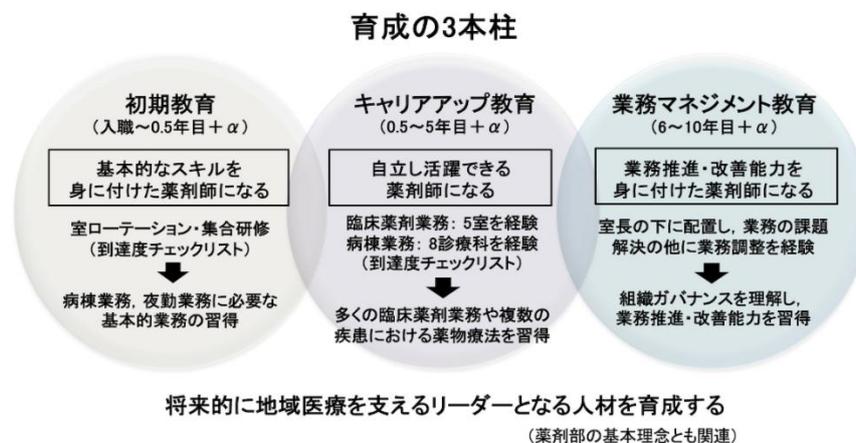


図1. 育成の3本柱

2. 教育研修部会

信州大学医学部附属病院における教育研修を統括する組織であり、薬剤部での初期教育における研修計画の立案及び検証等を行う。医師、薬剤師、看護師、事務職員等の多職種から構成される。

3. プログラムの管理運営のための組織と責任者

信州大学医学部附属病院薬剤部が、当院教育研修部会の方針に沿って、初期教育プログラムの管理、研修計画の実施、指導薬剤師・指導体制の全ての面に責任をもつ。

3-1. プログラム責任者

内藤隆文（教授・薬剤部長）

役割：教育プログラムを統括する。

3-2. 研修管理者

三村 享（薬剤主任）

朝倉充俊（薬剤主任）

柴田海斗（薬剤主任）

役割：教育が円滑に実施されるよう研修の管理を行う。研修期間内に各カリキュラムで定める到達目標が達成できるよう総合的な支援を行う。キャリア支援室員で構成される。

3-3. キャリア支援室

プログラム責任者から指名された薬剤師数名から構成される。

役割：薬剤師職員の初期教育やキャリアアップ教育の進捗の定期的な把握や助言に加え、認定・専門薬剤師の育成計画の作成を担当する。

3-4. 研修担当者

薬剤部の各室長および各室長から指名された室員で構成される。

役割：薬剤部の各室において薬剤部職員の教育を行う。各室における教育プログラムの実施、到達度の確認を行う。到達度確認表の定期的な見直しを行う。

3-5. 初期教育支援係

プログラム責任者から指名された薬剤師数名から構成される。

役割：初期教育において新人薬剤師の教育状況に偏りが出ないように定期的に教育状況を確認する。

4. 研修実施概要

4-1. 初期教育

新人薬剤師が薬剤師の基本的スキルを身に着けた薬剤師になるために、室ローテーション・集合研修により、病棟業務、夜勤業務に必要な基本的業務を習得する。概ね6か月程度を初期教育期間とする。業務の習得に関しては到達度チェックリストにより評価を行う。

○調剤業務（主に内服・外用剤）

- ・処方内容の確認・分析（電子カルテの利用も含む）
- ・処方鑑査・疑義照会
- ・計数調剤、計量調剤（散剤・水剤・軟膏剤等）
- ・麻薬・向精神薬の調剤および管理
- ・医薬品管理

○注射剤調製業務

- ・注射剤の一施用毎の調剤、払い出し等の管理
- ・中心静脈栄養用輸液の無菌調製の基礎（※）
- ・抗悪性腫瘍薬の調製の基礎（※）
- ・院内製剤の基礎（※）

※：初期教育期間では基礎を学び、業務の習得に関してはキャリアアップ教育期間に行う。

○病棟業務

- ・入院時持参薬の確認及び評価
- ・病棟での医薬品管理業務
- ・周術期における薬剤管理業務
- ・ハイリスク薬を含む薬物治療に関わる患者への説明および指導
- ・薬物血中濃度モニタリングに基づく投与設計
- ・退院時の指導（薬局との連携含む）

○医薬品情報管理

医薬品情報管理に関する研修は集合研修により実施し、各室での研修の際に役立てる。また、キャリアアップ教育期間に医薬品情報管理室のローテーション研修を実施する。

- ・医薬品情報の収集・評価の方法
- ・職員からの医薬品に関する問い合わせ対応方法

○薬剤部内における集合研修（詳細は別紙参照）

- ・緩和ケア
- ・がん化学療法レジメン
- ・吸入指導
- ・NST
- ・TDM
- ・臨床研究
- ・治験薬管理 など

○病院内における研修

薬剤師は病院内で受講が定められている研修を受講する。

- ・医療安全
- ・感染対策
- ・医薬品
- ・防災・災害対策
- ・BLS 研修
- ・医療倫理、患者の権利
- ・個人情報保護 など

4-2. キャリアアップ教育

自立し活躍できる薬剤師になる事を目指す。5室以上の臨床薬剤業務を経験し業務を習得する。また、病棟業務では内科系外科系含めた8診療科以上の複数診療科を経験し、幅広い疾患に対する薬物療法を習得することを目指す。概ね入職後6か月～5年間をキャリアアップ教育期間とする。業務の習得に関しては各室で整備されている到達度チェックリストにより評価を行う。キャリア支援室でキャリアアップ教育の進捗状況を定期的に把握し助言を行う。

○対象となる臨床薬剤業務（薬剤部の各室）

- ・調剤室
- ・注射薬払出室
- ・医薬品管理室
- ・麻薬向精神薬管理室
- ・医薬品安全管理支援室
- ・感染症治療支援室
- ・入院薬物治療管理室

- ・ 外来薬物治療管理室
- ・ 周術期薬物治療管理室
- ・ 薬務室
- ・ 治験薬管理室
- ・ 医薬品情報管理室
- ・ 製剤室
- ・ 通院治療支援室
- ・ 試験室

4-3. 業務マネジメント教育

業務推進・改善能力を身に着けた薬剤師となることを目指す。各室長の下で室業務の課題解決や、薬剤部内や病院内の各部署との業務調整を経験することで、組織ガバナンスを理解した上での業務推進・改善能力を習得する。教育は室長による OJT により実施する。キャリアアップ教育期間を終えた薬剤師を対象とする。

4-4. 到達度の評価

業務習得の確認は到達度チェックリストに基づき評価を行う。業務習得は習得レベル別に3段階に分類する。レベル A は日勤・夜勤業務にあたり習得すべき項目、レベル B は初期教育期間に習得すべき項目、レベル C はキャリアアップ教育期間以降に習得する項目とする。業務習得の評価は各室長が行い、研修管理者が確認を行う。

5. 薬剤部セミナー

薬剤業務の質的向上を目指して、論文紹介、症例報告および講義を全薬剤部員対象に月に2~3回程度の頻度で開催する。薬剤部セミナーはセミナー推進委員会が計画し実施する。

6. 認定・専門薬剤師養成について

6-1. 研修施設認定

信州大学医学部附属病院薬剤部は、認定・専門薬剤師育成の研修施設として下記の研修施設認定を取得しており、多くの分野で認定・専門薬剤師を育成するための研修を提供している。

- ・ 日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師研修認定施設（基幹施設）
- ・ 日本医療薬学会 がん専門薬剤師研修施設（基幹施設）
- ・ 日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師研修施設（基幹施設）
- ・ 日本医療薬学会 地域薬学ケア専門薬剤師研修施設（基幹施設）
- ・ 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師研修施設

- ・日本病院薬剤師会 妊婦・授乳婦専門薬剤師養成研修施設
- ・日本臨床腫瘍薬学会 がん診療病院連携研修施設
- ・日本臨床薬理学会 認定薬剤師研修施設

6 - 2. 認定・専門薬剤師取得の支援

認定・専門薬剤師取得に向けて下記を定期的実施し、組織的に取得支援を行う。

- ・キャリア支援面談（キャリア支援室）
- ・職員面談（薬剤部長、副薬剤部長）
- ・キャリアアンケート（キャリア支援室）

7. 薬剤師の採用

7-1. 募集

公募による募集を行う。

7-2. 選考方法

1 次選考：書類審査

2 次選考：筆記試験（記述）、口頭試問（面接）、書類審査

8. 研修スケジュール、チェックリスト

添付資料